

HP Operations Orchestration 10.x

Windows および Linux オペレーティングシステム

OO Base コンテンツパックバージョン 1.3.0

リリースノート

ドキュメントリリース日: 2014 年 11 月
ソフトウェアリリース日: 2014 年 11 月



ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によるのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2014 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe™ は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft®およびWindows®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

本製品には、'zlib' (汎用圧縮ライブラリ) のインターフェースが含まれています。'zlib': Copyright © 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler.

謝辞

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。

<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。**<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>**

または、HP Passport のログインページの [**New users - please register**] リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。

<http://www.hp.com/go/hpsupport>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

HP Software Solutions Nowは、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやITILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトのURLは<http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>です。

目次

ご注意	2
保証	2
権利の制限	2
著作権について	2
商標について	2
謝辞	2
ドキュメントの更新情報	3
サポート	4
概要	6
コンテンツパックの統合	6
新機能	8
機能拡張	8
Base コンテンツパックのデプロイ	10
修正された不具合	11
既知の問題	14
制限	18

概要

本ドキュメントでは、HP Operations Orchestration Base コンテンツパック 1.3.0 リリースの概要について説明します。マニュアルやオンラインヘルプに記載されていない重要な情報が含まれています。

このリリースでは、次の言語がサポートされます。

- en - 英語
- fr - フランス語
- de - ドイツ語
- ja - 日本語
- es - スペイン語
- zh_CN - 簡体字中国語

Base Content Pack 1.3.0 は累積的なコンテンツパックです。

コンテンツパックの統合

次の表に、Base コンテンツパックがサポートする統合の一覧を示します。

統合名	バージョン
Active Directory	Windows 2000、Windows 2003、Windows 2008、Windows 2008 R2、Windows 2012、Windows 2012 R2
AIX	AIX 5.3
FreeBSD	6.3、7.0
JDBC	
電子メール	POP3、IMAP
Excel	1997、2000、2003、2007、2010
ファイルシステム	
HP HP/UX	B.11.31
SOAP	

統合名	バージョン
JVM	5.0、6.0
MS Cluster	Windows 2003、Windows 2008、Windows 2008 R2
ネットワーク	
Red Hat	ES 3、AS 3、ES 4、AS 4、ES 5、ES 6.2
Perl	
PowerShell	1.0、2.0、3.0、4.0
印刷	
リモートコマンド実行	
Sharepoint	2003、2007
SNMP	1、2、3
Solaris	10
SUSE Linux	openSUSE 10.0、SUSE Enterprise Server 10 SP1、openSUSE 11.0
Windows	2003、XP、2008、2008 R2、2012、2012 R2
WMI	1.x
WS-Management	1.0.0

注：次の統合には基本的なオペレーションだけが含まれます。高度な機能については、対応する専用コンテンツパックを参照してください。

統合名	専用コンテンツパック
JDBC	Databases
FreeBSD、HP-UX、Red Hat、Linux、Solaris、SUSE Linux、Windows	Operating Systems、Infrastructure Orchestration
電子メール	Business Applications

新機能

- **oo-db2jcc の置き換え:** IBM DB2 データベースの接続に使用する Java コネクタが、ライセンス上の理由により削除されました。

Java コネクタを含む DB2 データベースサーバーのインスタンスごとに、「/<Base-CP>/Library/Operations/Databases」の下に「**JDBC**」フォルダーにある説明に従って、コネクタを探して OO にロードしてください。「**JDBC**」フォルダーの下にすべてのオペレーションが影響を受けます。

- **HTTP クライアント ver.2.0:** HTTP クライアントオペレーションの新しいセットが、「**HTTP Client v2.0**」フォルダーの下に追加されました。

これらのオペレーションにより、接続プーリング、Cookie、認証付きのプロキシ、改良されたフォームベース認証などの新機能と機能強化が提供されます。

また、同じフォルダーの下に、Tomcat コンテナにデプロイされた Web アプリケーションへの認証のためのフォームベースログインおよび Spring フォームベースログインを実行するサンプルのフローが追加されました。

これまでの HTTP クライアントオペレーションは、「**HTTP Client v1.0**」フォルダーに移動されました。

- **WS-Management:** HTTPS のサポート。WS-Management オペレーションが、HTTPS (単方向 HTTPS) による Web サービスサーバー通信をサポートするようになりました。
- 「/Library/Utility Operations/Date and Time/」の下に「**Get Epoch Time**」オペレーションが追加されました。このオペレーションは、実行元マシンの現在の日時を Epoch (Unix) タイムスタンプとして返します。
- **SSH コマンド** に **commandExitCode** という出力が追加されました。この出力は、スクリプトの終了リターンコードをキャプチャし、**returnResult** に保存して、コマンドの状態を返します。

機能拡張

- 「**HTTP Client Patch**」オペレーションが更新され、新しい入力フィールドの **chunked** が追加されました。このパラメーターを **true** に設定すると、「**HTTP Client Patch**」オペレーションが **HTTP Transfer-Encoding** ヘッダーを "chunked" に設定します。
- 「/Library/Operations/HTTP Client/」の下に「**HTTP Client v1.0**」オペレーションに新しい入力 **x509HostnameVerified** が追加されました。この入力、HTTPS による接続時にサーバーの ID をチェックします。

この入力は、サーバーのホスト名が、X.509 証明書のサブジェクトの共通名 (CN) または **subjectAltName** フィールドのドメイン名に一致することを確認するために使用されます。

すべての確認をスキップするには、この入力を **allow_all** に設定します。

値が **browser_compatible** の場合、このホスト名検証ツールは、Curl および Firefox と同じように動作します。ホスト名は最初の CN または任意のサブジェクト別名のいずれかと一致する必要があります。CN および任意のサブジェクト別名では、ワイルドカードを使用できません。**browser_compatible** と **strict** の唯一の違いは、**browser_compatible** ではワイルドカード (***.foo.com** など) がすべてのサブドメイン (**a.b.foo.com** など) と一致することです。

デフォルト値: **allow_all**

有効な値: **strict**、**browser_compatible**、**allow_all**

注: セキュリティを考慮すると、**strict** をホスト名の検証で使用することが推奨されます。

- **説明の改善**

次の領域でフローとオペレーションの説明が改善されました: 「**Active Directory**」、「**Email**」、「**Databases**」、「**HTTP Client**」、「**Remote Command Execution**」、「**Utility Operations**」

Base コンテンツパックのデプロイ

OO プラットフォームバージョン 10.00 以降が、Base コンテンツパック 1.3.0 をサポートしています。ただし、Base コンテンツパック 1.3.0 は、既存の OO プラットフォームバージョン 10.10 またはそれ以降にデプロイすることを推奨します。

コンテンツパックのデプロイの詳細については、『Studio オーサリングガイド』の「コンテンツパックのプロジェクトへのインポート」と『Central ユーザーガイド』の「コンテンツパックのデプロイ」を参照してください。

注: コンテンツパックのアンインストール/ロールバックの方法については、『HP OO Central ユーザーガイド』の「前回のデプロイメントへのロールバック」を参照してください。

修正された不具合

修正された不具合の参照番号は、ALM グローバルID 番号 (QCCR) です。

修正された不具合の詳細については、「HP ソフトウェアサポートオンライン」を参照するか、HP サポート担当者まで直接お問い合わせください。

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C5496	WS-Management: サーバーとの HTTPS 接続のサポート	「/Library/Operations/」の下での「 WS-Management 」フォルダーのオペレーションが、サーバーへのすべての HTTP 接続 (暗号化および非暗号化) をサポートするようになりました。
QCCR8C7461	オペレーション「SNMPv1」が返すエラーメッセージが紛誤解を招くおそれがある	「/Library/Operations/SNMP/v1」の下での「 SNMPv1 Get 」オペレーションのエラーメッセージが正しくなりました。
QCCR8C9010	オペレーション「SNMPv1 Get」が失敗する	「/Library/Operations/SNMP/v1」の下での「 SNMPv1 Get 」オペレーションが、V1 SNMP エージェントだけをサポートするデバイスに対して正しく動作するようになりました。
QCCR8C10025	演算オペレーションが他の演算オペレーションで使用できない指数関数の結果を返す	「/Library/Utility Operations/Math and Comparison/Simple Evaluators/」の下での「 Multiply 」オペレーションが、正しく実行されるようになりました。
QCCR8C11005	Windows の「Remote Command Execution」が失敗し、フローの実行が中断される	検出された Null 値がチェックされるようになり、それによってフロー実行の失敗が処理されるようになりました。
QCCR8C23160	「Remote Command Execution」ステップを、OOTB フロー内の対応するオペレーションで置き換える	「/Library/Operations/Operating Systems/Windows/」の下での「 Remote Command Execution 」フローが、OOTB コンテンツ全体を通じてランダムに使用されることはなくなりました。
QCCR8C21320	HTTP クライアントベースのすべてのオペレーションに socketTimeout を追加	9.0 の「/Library/Operations/HTTP Client/」の下での「 Http Client Get 」オペレーションに新しい入力 socketTimeout が設定され、これに関する説明もあります。しかし、「/Library/Operations/HTTP Client/」の他の HTTP ベースオペレーションには、 socketTimeout に関する説明がありません。

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C22814	「Remote Command Execution」の "Result" が約 976,000 バイトに切り詰められる	「Operations/Operating System/Windows」の下での「 Remote Command Execution 」オペレーションの結果データが切り詰められなくなりました。
QCCR8C23183 QCCR8C23184	「HTTP PUT」オペレーションが Content-Length ヘッダーがないために失敗する	「HTTP PUT」フローを使用する際に、HTTP 要求に対する "application/json" 形式の文字列の本文が送信されます。HTTP API サーバーは Content-Length ヘッダーが正しく設定されていることを予期していますが、これはクライアントによって自動的に設定されません。Content-Length ヘッダーが 8 ビットエンコードされた本文のバイト長に設定された場合、Content-Length ヘッダーがすでに設定されているというエラーが発生します。
QCCR8C23236	「Validate XML Document」オペレーションを XML 名前空間をサポートするように変更	「Utility Operations/XML Processing」の下での「 Validate XML Document 」オペレーションを使用するときに、XML ドキュメントに XML 名前空間タグ (xmlns) が含まれていても、エラーが発生しなくなりました。
QCCR8C23719	Ping.Traceroute @Actions は "WMI" プロトコルで "WINDOWS" リモート OS に対して動作しない	「/Operations/Network」の下での @Action Ping (56c181bc-a763-435c-9561-4ba29d045c86) が、リモート Windows オペレーティングシステムに対して WMI プロトコルで動作するようになりました。
QCCR8C23965	日本語環境で「Log Windows Event」オペレーションが失敗する	「Operations/Operating Systems/Windows/Event Logs」の下での「 Log Windows Event 」オペレーションが、日本語オペレーティングシステムで正しく動作するようになりました。
QCCR8C24598	セキュリティの問題	
QCCR8C24957	HTTP クライアント - cacerts のデフォルトの場所	HTTP クライアントのすべてのオペレーションが、デフォルトの場所 <OO ホーム>/java/lib/security/cacerts を使用するようになりました。
QCCR8C25089	CP6 に比べ、CP11 での invoke2 オペレーションのパフォーマンスが低下している	CP7 より上のコンテンツパックでは、「Invoke method」オペレーションの速度が遅くなっていましたが、オペレーションの速度が速くなりました。

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C25112	「SSH/SharedSessions」オペレーションがマルチスレッド環境で動作しない(並列分岐)	<p>「SSH/SharedSessions」は、オブジェクト GlobalSessionObject を使用します。このオブジェクトは、並列分岐またはマルチインスタンスのすべてのブランチで使用できます。ただし、このオブジェクトへのアクセスは同期されていません。</p> <p>このため、セッションが予期しないタイミングで削除/設定され、「Could not find sessionId in the session context」というエラーが発生していました。</p> <p>この問題が解決されました。</p>
QCCR8C25230	「Http Client」の trustAllRoots のデフォルト値が 'true' である	<p>「Http Client」オペレーションをHTTPSで使用する場合、trustAllRoots 入力を false に設定して、証明書を発行した証明書機関のチェックを有効にすることが推奨されます。</p> <p>これらのオペレーションの説明も、上記のように更新されました。</p>
QCCR8C25322	OO の相対パスが、JAVA_HOME 環境変数を基準にしている	<p>OO コンテンツで相対パスを使用する場合、そのパスは JAVA_HOME システム変数を基準に定義されます。OO 10.x でコンテンツを実行するときに、JAVA_HOME 変数が、Central、Studio、RAS の各実行の間で一貫性を持つようになりました。</p>

既知の問題

既知の問題の詳細については、「HP ソフトウェアサポートオンライン」を参照するか、HP サポート担当者まで直接お問い合わせください。

「/Library/Operations/PowerShell/PowerShell Script」オペレーションが JRAS 権限を使用する

ループバックアドレスが **host** として指定されており、オペレーションがサービス (RAS など) から実行された場合、指定された **username** の権限は更新されません。

JDBC 統合に必要な MySQL JDBC コネクタがサードパーティで除外されている

JDBC 統合に必要な MySQL JDBC コネクタがサードパーティで除外されているため、クライアントで追加する必要があります。この存在しない依存関係を追加する標準の方法は、third-party-cp.jar をアーティファクトとともにデプロイすることです。しかし、OO 10.02 では、依存関係がプラグインの POM で宣言されていないと、これは効果がありません。

ただし、JDBC オペレーションはこの依存関係なしでも動作する必要がある (他のデータベースのために)、この依存関係は宣言できません。

Netcool DB に対して SQL クエリを使用する場合、データベースの指定が強制されるべきではない

「/Library/Operations/Databases/JDBC/SQL Query」の下に「SQL Query」オペレーションを使用するには、データベース名の入力が必要です。値を指定すると、オペレーションは正常に完了しますが、Netcool ログにエラーが書き込まれます。

ファイルシステム: マップされたドライブ上の有効なパスに対してすべてのオペレーションが失敗する

マップされたドライブ上のファイルに対してオペレーションを呼び出すと、オペレーションは失敗します。

複数の実行から「PowerShell Script」を並列に使用すると例外が発生する

複数の実行から「PowerShell Script」を並列に使用すると、エラーが発生する場合があります。

回避策:

「PowerShell」オペレーションを呼び出す前に「Acquire Lock」オペレーションを実行し、後で「Release Lock」オペレーションを実行します。

Netcool データベースに対する SQL オペレーションでセミコロンが使用できない

「Operations/Databases/Microsoft SQL」の下に「SQL query」オペレーションは、いずれかのフィールドのデータにセミコロンが含まれていない限り、Netcool データベースに対して正しく動作します。オペレーションの区切り文字がパイプ文字にカスタマイズされた場合、結果は NULL のままです。同じオペレーションが、セミコロンを含まないデータを返す場合は正しく動作します。

「Change Service Status」の requestedstatus フィールドで入力が一時的に停止するとオペレーションが失敗する

「Operations/Operating Systems/Windows/Services」の下に「Change Service Status」オペレーションは、requestedstatus フィールドの入力に値 'paused' があると失敗します。

サンプルフロー「Move Emails」がオブジェクトを正しくないメールボックスに配置する

「Operations/Exchange/Exchange 2010/Samples/Emails」の下の OOTB フロー「**Move Emails**」は、選択したアカウントがメールボックス所有者に属していない場合、選択したメールボックスのオブジェクトを移動できません。

Date Parser が大きなミリ秒値を正しく変換しない

「Date Parser」オペレーション (/Library/Utility Operations/Date and Time/Date Parser) は、2³² 以上の入力値を正しく変換しません。このため、出力日付の範囲が 12/7/1969 ~ 1/25/1970 に制限されます。

「Operating System Detector」で、ReturnResult の末尾に印刷不可能な文字が残される

「Operating System Detector」オペレーションによって ReturnResult の末尾に印刷不可能な文字が残されます。返された値を一致の種類 RegEx とパターン ".*" で「String Comparator」オペレーションに渡そうとすると、不一致エラーが発生します。

「/Library/Operations/File System/Windows Only/Excel/Get Cell」オペレーションを OLE オブジェクトを含む Excel ファイルに対して使用すると、失敗に終わる

「/Library/Operations/File System/Windows Only/Excel/Get Cell」オペレーションを使用して Excel シートを読み取るフローを実行する場合、Excel ファイルに OLE オブジェクト (チェックボックスなど) が含まれていると、オペレーションは失敗し、エラーメッセージが表示されます。

SFTP オペレーションが非パスワード認証に対して動作しない

SFTP オペレーションは非パスワード認証に対して動作しません。

パスフレーズレスキーを使用してリモートホストに認証しようとする、パスワード入力が空であるという理由で失敗します。

「Offset Time by」オペレーションが解析不能の日付のために失敗する

オペレーション「/Library/Utility Operations/Date and Time/Offset Time by」が解析不能の日付のためにエラーが発生します。

次の入力を空白に設定すると、オペレーションは正しく動作します。

localeLang =

localeCountry =

RAS が日本語版の Windows 2008、VISTA、または Windows 7 上で設定されている場合、Local Ping は正しく動作しません。

日本語 Window 2008、VISTA、または Windows 7 オペレーティングシステムで RAS が定義されている場合、ローカル ping オペレーションは正しく動作しません。

回避策:

この問題は、コードを次のように編集することで修正できます。

「**Local Ping**」オペレーションによって作成される一時 bat ファイルの先頭に、chcp 437 を追加します。

chcp.com 437 によってコードページが OEM United States に設定されるため、ping コマンドの出力がローカライズされなくなります。

Excel の「Get Row Index by Condition」オペレーションで「org.apache.poi.hssf.record.RecordFormatException:Unable to construct record instance.」が発生する。

「/Operations/File System/Windows Only/Excel」の下での「**Get Row Index by Condition**」オペレーションは、エラーメッセージが表示されて失敗し、Apache POI によって例外がスローされます。

SQL Server のバイナリデータが OO でバイナリとして返されない

SQL Server データベースでタイプが **binary(16)** の列のクエリを OO から実行した場合、結果がデータベースの内容と一致しません。

Apache POI ライブラリを利用可能な最新の安定バージョンにアップグレードする必要がある

コンテンツパックに付属する Apache POI バージョンには、バグから生じる問題がいくつかあります。

回避策: Apache POI の新しいバージョン (バージョン 3.8) にアップグレードします。

HTTP クライアント v1 のオペレーションを使用する OOTB フローで、trustAllRoots のデフォルト値が説明では false になっている

HTTP クライアント v1 を使用する OOTB フローの説明では、**trustAllRoots** のデフォルトは False になっています。http クライアント v1 オペレーションのデフォルト入力はすべて True になったため、この記述は正しくありません。この問題は、HP Solutions や Cloud などのコンテンツパックにある、HTTP クライアント v1 を使用するすべての OOTB フローに影響します。

CP15 および ACDC でホスト名またはユーザー名にローカライズされた文字 (すべての言語) を使用すると、フローまたはオペレーションが失敗する

ホスト名またはユーザー名フィールドにローカライズされた文字 (英語以外のすべての言語) を使用すると、フローまたはオペレーションが失敗します。

IPv6 の制限

[IPv6][WMI] - 「Java」フォルダーの「WMI」オペレーションを IPv6 アドレスを使用して実行できない

「Java」フォルダーの「WMI」オペレーションを実行すると、IPv6 アドレスを使用している場合に失敗します。これはサードパーティの問題 (j-Interop) によるものです。

同じオペレーションを IPv4 アドレスで実行すると成功します。

次の Base コンテンツパックフローは「**Operations/WMI/Java**」に依存するため、IPv6 では動作しません。

- 「/Operations/Operating Systems/Windows/Processes」の下の「**Get Processes By Name**」
- 「/Operations/Operating Systems/Windows/Processes」の下の「**Get Process PID**」
- 「/Operations/Operating Systems/Windows/Processes」の下の「**Get Windows Processes**」
- 「/Operations/Operating Systems/Windows/Processes」の下の「**Get Process Counters**」
- 「/Operations/Operating Systems/Windows/Processes」の下の「**Get Task List**」
- 「/Operations/Operating Systems/Windows/Samples/」の下の「**WMI Query**」

「/Operations/Remote File Transfer/WebDAV」の下の「**WebDAV**」オペレーションは、サードパーティの問題 (Jakarta Slide、Commons HttpClient) により IPv6 では動作しません。

「/Operations/Powershell/Network」の「**Configure Network Adapter**」オペレーションは、Windows Server 2012/Windows 8 より前の Windows バージョンでは IPv6 インタフェースを設定できません。

「/Operations/Operating Systems」の下の「**HP-UX**」オペレーティングシステムは、IPv6 では検証されていません。

「/Operations/Operating Systems」の下の「**AIX**」オペレーティングシステムは、IPv6 では検証されていません。

「/Operations/Remote Command Execution」の下の「**Remote Command**」オペレーションの ROSH (Remote Opware Shell) および GlobalShell (Opware Global Shell) プロトコルは IPv6 では検証されていません。これらのプロトコルは HP Server Automation の製品と統合されており、これらの製品はまだ IPv6 で検証されていません。

「/Operations/Remote Command Execution/Remote Command」の **rexec** プロトコルは、rexec サーバー (rexecd デーモン) が IPv6 接続をサポートしないため、IPv6 をサポートしません。

非推奨のオペレーションは IPv6 では検証されていません。

制限

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C24078	「Create Local Group」フローで英数字以外の文字を使用すると、フローは成功するが、例外が発生してアカウントは作成されない。	「Library/Operations/PowerShell/Utility」の下の「 Create Local Group 」フローが、英数字以外の文字が使用されていても正常に完了するようになりました。

